

「片瀬・鵜沼・辻堂の地名に迫る！」

藤沢地名の会 布施克彦

第 1 回:大字・小字とは?片瀬・鵜沼・辻堂が藤沢の一部になった経緯

(2024 年 7 月 3 日放送)

Q1 初めに、片瀬・鵜沼・辻堂のそれぞれの地名の由来は?

片瀬:片瀬川の作る浅瀬や川口の潟地形から出た名前?片は固、方、潟、肩など

鵜沼:引地川の蛇行跡の沼、池、湿地に白鳥(くぐい)が群れていた。

辻堂:集落を北西から南東に貫く旧鎌倉道と交差する古道の四つ角(辻)の近くにお堂があったから。場所とお堂については複数の説がある。

Q2 「大字」とは何か

地名の最小単位としての字は相当昔からあった。普及したのは 16 世紀終わり頃の太閤検地。その字が複数集まって村を構成。明治 22 年の市町村大合併の中で、大きな自治体の一部となった旧村が、大字と呼ばれるようになった。現在藤沢市を構成する地区の多くが旧大字である。

Q3 「小字」とは何か

村を構成する字が先の明治 22 年の市町村大合併で旧村が大字となる中で、それを構成する字が小字と呼ばれるようになった。

Q4 それぞれの地区が藤沢市の一部になった経緯は

片瀬:鎌倉郡片瀬村+江の島村(明治 22 年に川口村)その後昭和 8 年に鎌倉郡片瀬町、昭和 22 年に藤沢市の大字となった。

鵜沼:明治 41 年藤沢(前年に藤沢町となっていた)と合併、高座郡藤沢町の大字となる辻堂:明治 22 年明治村の一部(大庭、羽鳥、稻荷と)、明治 41 年藤沢町の大字となった。